

きょう、あす 大垣まつり

「軸」のテープ今年も販売

廃棄物処理「昭和技研」（大垣市築捨町）でインターンシップ（就業体験）をしている学生らが立ち上げた企画「世間遺産」プロジェクトが、今年も十二、十三日に開かれる大垣まつり会場で活動する。地域にある身近なものを補助金などに頼らずに残していくため、保存費用を集める取り組み。祭りの全ての軸をデザインした十二種類のマスキングテープを販売している。

（滝田健司）



昭和技研の新規事業部「おもひでや」（輪之内町楡俣）で、二年前に学生の発案で始まった企画。地域にある守りたい場所や建物を「世間遺産」として登録し、それにちなんだ図柄が入った一個五百円のマスキングテープを販売。うち百円を保存費用に充てる。飾りとして女性に人気が高いマスキングテープの販売を通し、より幅広い層に保存活動に対する関心を高める。これまで「おもひでや」でインターンシップをした学生の活動で、旧原田写真館（愛知県瀬戸市）、旧川本榎吉邸（同）、大垣まつり（大垣市）、木升製造の大橋量器「ますや」（同）、醤油製造の山川醸造「たまりや」（岐阜市）の五件を世間遺産として登録した。

大垣まつり会場でマスキングテープを販売する稲葉さん＝輪之内町楡俣で

学生ら企画「世間遺産」カラフル 興味持って

昭和技研の田中禎一社長（四四）は「クラウドファンディングのAnaログ版のようなイメージ。保存に直接関わる人が少なくなっていく中、当事者以外にも共感を広げていくきっかけとなれば」と話す。

大垣まつりマスキングテープは昨年五月に発売。昨年末までに四百九十三個が売れ、一月には大垣祭保存会に四万九千三百円を寄付した。

今年も祭りの二日間に駅前商店街のムトウさかや前にブースを設け、インターンシップ生の稲葉志歩さん（二〇）＝愛知教育大三年生＝が販売する。多治見市出身の稲葉さんは「大垣まつりの軸は、それぞれがカラフル。テープを通して、女性や子どもにも軸に興味を持ってもらえるとうれしい」と話している。

稲葉さんは十月までのインターンシップ期間中に、新たな世間遺産の登録に向けて活動する。大垣まつりマスキングテープは、祭り開催日以外にも、奥の細道むすびの地記念館（大垣市船町）とムトウさかやで販売している。